第３回中野区基本構想審議会　部会（自治・共生・活力）

〇日時　　令和元年５月 30 日（木曜日）午後 7:00～9:00

〇会場　　中野区役所７階　　第 10 会議室

〇出欠者

１　部会委員

出席者

岡井　敏、笠尾　敦司、岸　哲也、小池　浩子、高橋　佐智子

宮脇　淳、横田　雅弘、米持　大介

欠席者

髙橋　宏治

２　事務局

広聴・広報課長　　高村　和哉

産業観光課長　　堀越　恵美子

観光・シティプロモーション担当課長　　桜井　安名

文化・国際交流課長　　藤永　益次

区民活動推進担当課長　　宇田川　直子

基本構想担当課長　　永見　英光

【議　事】

〇宮脇部会長

それでは、本日出席の皆さんおそろいですので、部会をスタートさせていただきたいと思います。

ただいまより、中野区基本構想審議会の自治・共生・活力部会第３回を始めさせていただきます。

本日ですが、中野区の商店街連合会の髙橋委員から、ご都合により欠席とのご連絡をいただいております。部会は半数以上の部会委員の方に出席していただいておりますので、有効に成立しております。

終了時間ですけれども、遅くとも９時としたいと思いますので、よろしくお願いいたし

ます。

それでは、事務局のほうから、本日出席をされている区の職員の紹介がございますので、よろしくお願いします。

○永見基本構想担当課長

本日もありがとうございます。基本構想担当課長永見でございます。本日、出席の職員が前回と少し変わっていますので、改めてご紹介をさせていただきます。

基本構想担当永見です。よろしくお願いいたします。

○高村広報課長

広報課長の高村です。よろしくお願いします

○堀越産業観光課長

産業観光課長の堀越と申します。よろしくお願いいたします。

○桜井観光・シティプロモーション担当課長

観光・シティプロモーション担当課長の桜井です。よろしくお願いいたします。

○藤永文化・国際交流課長

文化・国際交流課長の藤永です。よろしくお願いいたします。

○宇田川区民活動推進担当課長

区民活動推進担当課長の宇田川と申します。よろしくお願いいたします。

○永見基本構想担当課長

以上でございます。

○宮脇部会長

ありがとうございました。

それでは、次第にありますように今日の議題でございますけれども、まず最初に、第2回の審議内容について振り返りさせていただきまして、その後、重点テーマであります「地域愛を育む人のつながり」、「区内経済活動の活性化」、「身近にある文化・芸術」の3つのテーマについて審議をしていただきたいと思います。

それでは、本日の配布資料と自治・共生・活力会第2回審議内容の概要につきまして、まずは事務局よりご説明をお願いします。

○永見基本構想担当課長

それでは、A3の大きな資料について説明したいと思います。

前回、5月10日に実施いたしました部会の内容を、テーマごとに発言とその発言に基づ

いて答申になったときに、こんなようなものになるのかなということで事務局のほうでまとめさせていただきました。

1枚目の裏が最初のテーマ「区民と協働・協創する自治体」ということで、キーワードが「多様性」、「協働」、「スタートアップ」というのがありますので、それぞれ左上に「多様性」、右上に「協働」、左下に「スタートアップ」。また、そこにあてはまらないかなということで右下に「その他」ということで分類を、白い枠で発言を分類させていただいて、その下の網かけの「答申のイメージ」というところに、この発言が答申ではこんな感じなのかなということでまとめさせていただきました。

①、②、③とありますけれども、上に複数①、②と数字があった場合であっても、答申のほうではそれを1つにまとめた形でまとめております。

また、右下、その他の欄に囲みがありまして、「議論のＰｏｉｎｔ」というものを書かせていただきました。こちらは、前回資料をお配りしているのですが、前回の審議のときにはあまりふれられなかった中身だったかということで、もしよろしければ、審議いただければということでこのような形で記載をさせていただいたものでございます。

それから、追加資料ということで、外国人年齢別人口の推移ということで、こちらA4の横の資料を配らせていただきました。こちらは、外国人が近年増加しているということで、2014年と2019年の比較と。この5年間で、特に20代の外国人の方が増加傾向にあることが一見してわかる。そんな資料になってございます。

それから、米持委員からいただいた資料をお配りしております。

資料の説明は以上でございます。

○宮脇部会長

ありがとうございました。

まず最初ですけれども、今、課長のほうからご説明があった第2回審議内容について振り返りをさせていただきたいということでございます。今、ご説明があった中で、「答申のイメージ」というのがありますけれども、これはあくまでもイメージです。これは、最終的には全体の審議会のほうで議論するというものですけれども、部会において、こういうことなのかなというようなイメージとして共有をしていただくためのものになります。

先ほど、永見課長のほうからもありましたけれども、例えば、「区民と協働・協創する自治体」のところでは右下のところに「議論のＰｏｉｎｔ」というのがあって。これについては、前回少し議論が深まらなかったといいますか、あまりふれられなかったところであ

るので、もし何かあればご指摘をいただきたいと。

それから、「違いを力に変える多様な連携」のところでも、右下に「議論のＰｏｉｎｔ」というのが３つございまして、これも同趣旨でございます。

もちろん、審議会のほうに報告するまでは、あともう一回全体での振り返りがありますので、そこでもご議論いただくことになりますが、現段階で、この第２回において議論したことについて追加ですとか、あるいは議論のポイントでご発言いただけるようなことがあればお願いしますというのが今の趣旨でございます。

いきなりなのですけれども、何かございましたらお願いいたします。

○笠尾委員

よろしいですか。「答申のイメージ」というのがよくわからないのですけれども。例えば、「多様性」のところで、発言内容を「答申のイメージ」にまとめられていますよね。その「答申のイメージ」のほうを読むと、何か上で書かれている発言の内容が当たりさわりのない文書になっているというか、一般的な感じにとられてしまうのですけど、これ発言内容がそのままだと、何か書き方の問題があることなのですか。

私から見ると、発言内容を見ているほうが具体性があって理解しやすく思えるわけなのですけれども、これを答申のイメージにまとめることの意味がいまいちよくわかっていないので、ちょっと説明していただければと思います。

○永見基本構想担当課長

答申は、審議会のほうで作成いただいてこちらにいただくというような、そういった形にはなりますので、あくまで答申になったときには、このような表現なのかなということで参考までにこちらで作成してみたということではございます。

どの程度の具体性を持っていただくかというのは、審議会のほうから答申をいただくときにさまざまにご判断いただきたいと思ってはおります。

これまでの審議会からいただく答申としては、例えば基本構想ですと、盛り込むべき内容というような形で、ある程度、若干抽象的な表現にまとめていただいていることが一般的なのかなと思います。そのように考え、このような表現がイメージされるのかなと、というものでございます。

○笠尾委員

例えば、多様性のところの④とか「障害者の作品制作に、デザイン事務所や区が関わることで、付加価値が生まれ、利益を出すことができ、障害者の工賃となると良い」という

のは非常に具体的な話ですよね。それが、下の「答申のイメージで」、「障害の有無にかかわらず、区民が持つ技能の価値が高まっている」と言われると、これは多分、どこの区でもこう書けば書けるような気がして、上のほうがよいのではないかと私は思ってしまうのですけど、そういうものではないのですか。

○永見基本構想担当課長

書き方に関しては、このままということでは必ずしもないと思うのですが、今、基本構想という形に、最終的にでき上がるときには、そこまでの具体性を持って書かれることは基本的にはあまりないと思います。それは、どの自治体の基本構想をごらんいただいてもそのような形かなとは思います。ただ、ちょっと答申としていただくレベル感は、審議会とのご判断かなとは思いますので、そこは調整していきたいと思います。

○横田委員

我々が検討したものが有益な形で伝わるといいと思いますし、実際に生かされるものになったほうがいいと思うわけですけれども、答申の形というのはあると思うので、この答申のイメージのようなものになったとして、その背景となっている具体性のある表現は残されて伝えられるものになるのでしょうか。

つまり、読もうとした人が、この「答申のイメージ」を見て、これはどういう議論から生まれたのだろうということを見てもらうような具体性というのは、答申が発表されるときにも担保されて出て行くものなのか。こういう具体例がなくなってしまってこの答申のイメージだけが出されると、どこの区でも同じのようなもので、これから一体何を生み出せばいいのかがわからなくなってしまうことを心配しているわけなのですが、背後にある具体性はどう担保されるものなのでしょうか。

○永見基本構想担当課長

答申は、審議会でつくっていただくものですので、例えば、ある程度ここに書いてあるイメージのようなことはありつつ、発言集みたいなものが別に添付されているとか、そんな形式も答申のあり方としてはあると思いますので、宮脇会長がいらっしゃいますので、その辺はご相談していただければと思います。

○宮脇部会長

前回の基本構想をつくるときの審議会の答申については、今、先生が言われたように、どうしてもこういうものは体系が必要になってくるので、体系化されたものを提示する。ただ、そうなってしまうと、先生が言われるように、全部抽象的でどこの区でも同じよう

なものになってしまいます。

実際に、区側で基本計画とか個別計画のほうに落とし込んでいくという作業があるわけですけれども、審議会では何で答申の中でこれを言ったのというタグがついていないと、その基本計画や個別計画のところに浸透していかないことがありまして、答申にするときに主な意見については、その後に全部羅列して共有するというやり方を前回はとりました。

したがって、今、ご発言がありましたように、今回も、やはりそういうものというのはきちんと提示をしていくべきではないかと私は思うのですが、これは審議会でのご議論を経てと思っております。

○小池委員

質問をよろしいでしょうか。この資料なのですけれども、(1)、(2) 2つのお題に対して、多様性、協働、スタートアップ、その他という4つの視点で意見を分類されていると理解したのですけれども、スタートアップというのが、どういう趣旨のポイントなのかなというのがちょっとわからない。

私が知っているスタートアップと意味が違うのかなという印象を受けたので、どうしてこの4つが選ばれたのかを聞かせていただけますか。

○永見基本構想担当課長

このポイントは、一番最初の全体会のときに、今回の基本構想のキーワードとして、区長から発言があったように、多様性、協働、スタートアップという3つのキーワードを提示させていただいたということで、この3つ。

それから、3つに分類したけれども、必ずしもこの3つで分類し切れないかなということで、その他というものを設けた。そういった趣旨でございます。

ただ、この3つの分類に関しては、分類はしたわけですけれども、最終的にこの形でまとまっていくかというのは、いろいろと調整しながらというところだと思っていますので、検討の余地はあるのかなと考えています。

○宮脇部会長

もし、その議論のポイントというところで、何か示唆していただけるようなことがありましたら、ご発言をいただけると助かりますということでございます。

○岸委員

すみません。この「議論のＰｏｉｎｔ」というのは、前回、例えば、(1) 区民と協働・協創する自治体というテーマで話したときに深まらなかったということでしょうか。

○永見基本構想担当課長

深まらなかったというか、ほとんど発言がなかったと。

○岸委員

だから趣旨をこの点で。

○永見基本構想担当課長

そうです。

○岸委員

ポイントというのはそういう意味なのですか。

○永見基本構想担当課長

補っておきたいなという。

○岡井委員

このプリントに書かれている発言内容は、あくまでこの審議会で出たものと、そこからの答申イメージが書いてあって、別途やっているタウンミーティングとか、そういったほかの区民からの情報の吸い上げというものは、ここでは今はまだ反映はされていなくて、これとあわせていろいろと推敲されていく、材料にされていくという理解でよろしいですか。

○永見基本構想担当課長

そうです。今、実際に行っているタウンミーティング。それから、近日中に予定されているワークショップ。こちらについては、次回部会のときに区としてこんな内容でしたということで報告をさせていただこうと思っています。

○宮脇部会長

すみません。次回の今ありましたけれども、部会において、やはり全体的に今ご指摘のあったような情報というのも入ってきますので、それを含めてポイントのところも必要な事項があればご発言いただき議論をしていただきたいと思います。

ただ、今日、冒頭にいきなり発言してくださいと言ってもかなり頭の整理がいることだと思いますので、この辺については、まだ我々部会としては発言がなかったですねというイメージを持っていただいて、次回までにでも、お時間のあるときにご検討をいただければと思います。また、後ほどちょっと時間は取りたいと思います。

それでは、進めさせていただきます。重点テーマについての審議ということで、これは前回から予定していたものでございますけれども、次第 2 で重点テーマについての審議の

第1番目「地域愛を育む人のつながり」から順次始めたいと思っています。今日3つございます。もちろん、それぞれかかわり合いのある部分もあろうかと思いますから、それについては遠慮なくご発言をいただき、また最後には全体を見させていただきたいと思っております。

まず、事務局のほうから、「地域愛を育む人のつながり」につきまして、ご説明をいただければと思います。

○永見基本構想担当課長

前回配布をいたしました資料3-1というパワーポイントをプリントした白黒のものは皆さん、お手元にございますでしょうか。

そちらをご覧いただきまして、右下にページが振ってありますけれども、26と書かれてあるところに、「地域愛を育む人のつながり」と書いてあるかと思います。その次の27から31までが、これに関連する内容となっておりますので、担当の区民活動推進担当課長からご説明申し上げます。

○宇田川区民活動推進担当課長

すみません。座ったままで説明させていただきます。

まず、27ページの資料をごらんください。「就労以外の社会や地域との関わり」ということで整理をしたものでございます。最近1年間に参加した活動というのが、左側のグラフになっています。最近1年間、就労以外で社会や地域とのかかわりがないと答えた方、一番下42.4%となっております。

右側のグラフのほうで、その理由。社会や地域にかかわっていない理由をお尋ねした結果でございます。活動する時間がないという方が43%と多いのですけれども、私ども区としてこれから検討していくに当たっては、参加するきっかけが得られない。それから情報がない、それぞれ20%程度の方がそうお答えになっていると、ここに着目をしながら考えていく必要があるかなと認識をしているところでございます。

次の28ページの資料でございます。こちらが近隣の見守り支え合い活動に関する状況の1つ目の資料です。見守り支えあい活動は必要だと思いますかという質問に対して、73.8%、75%の人が必要だと答えているという状況です。

そして、下のグラフでございますけれども、必要だと思う人に活動の状況をお尋ねした結果です。必要と思う74%の方のうち52%程度の方は、活動していないがこれから活動してみたいという答えをされているというところで、こちら数字にも着目しながら検討して

いけたらということで考えております。

ちなみに、必要だと思う人の活動状況等で、継続的に活動しているという方は9.1％ということで1割弱という結果になってございます。

次に、29ページの資料をごらんください。こちらは近隣の見守り支えあい活動に関する状況の2つ目のデータでございます。こちら、今後、見守り支えあい活動をしてみたいが、現在していない理由というのを年代別で分析したものが掲載されております。こちらごらんいただくと、30代では、きっかけがないが最も多いという状況です。多忙で時間の余裕がないという方は50代、40代、60代の順に多くなっておりますけれども、こちらにつきましても、活動内容がわからないとお答えになっている方が全体で2割程度いるというところに着目をしながら考えていけたらということで四角で囲ませていただいたところです。

そして、どのようなきっかけや情報があれば参加しようと思うかというのが右側の図でございます。参加するきっかけとなるものについて、40代から70代では、情報誌ですとかホームページの閲覧が上位となっておりますけれども、30代の数字を見ていただくと、団体からのボランティアの募集が同等くらいの割合で求められているという状況でございます。20代になりますと、こういった団体からのボランティアの募集のほうが数字的には多いという状況になっていることが読み取れるかと思います。

次に、30ページをご覧ください。こちらのデータは中野区のデータではなく、備考に記しておりますとおり、内閣府が平成25年度に行った「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」というものから数字をもってきたものでございます。調査の対象の7カ国のうち、ボランティア活動に興味があると答えた若者の割合は、日本が最下位という状況です。さらに、唯一興味がないと答えた割合を、興味があると答えた割合のほうが下回っているという状況となっております。

右側の表が、ボランティア活動に興味がある理由なのですけれども、日本の若者については、四角で囲ってありますように、困っている人の手助けをしたいという方が65.4％となっておりますけれども、その上の、地域や社会をよりよくしたいという方も48％。それから上から5行目になりますけれども、いろいろな人と出会いたいという方も50％弱程度といるところに着目したいと考えているところです。

31ページの資料をご覧ください。こちらは、区内に拠点のあるＮＰＯ法人（208団体）の活動内容でございます。こちらは、複数の回答が可という調査となっておりますので、下に記したように208団体の団体がさまざまな活動をしているということが数字としては

読み取れるかと思いますけれども。一番下のほうに記しましたとおり、一番多い活動としては、人権・平和・国際協力という活動が 140。それから、中間支援としていますけれども、団体の運営とか活動への連絡とか援助をするというようなそういった活動が 130。それから、まちづくり・地域の活性化にかかわる活動が 128。そして、保健・福祉が 112 といったような状況になっております。

右側の四角で囲ってありますのが、中野区の公益助成の実績でございます。これ、領域 1 から領域 10 で分類しておりますけれども、全て 120 団体に公益助成をしているという実績を掲載させていただいたところでございます。私からの説明は以上です。

○宮脇部会長

ありがとうございました。それでは、委員の皆様から、「地域愛を育む人のつながり」というテーマで、今の説明、ご質問、あるいはご議論、問題提起を積極的にご発言いただきたいと思います。お願いいたします。

○小池委員

ちょっと質問させてください。今、ボランティアの一例として、この見守り支えあい活動というのを挙げられているということでしょうか。どうしてそれを取り上げられているのかといいますか、言及がその部分に対してしかないので、いろいろなボランティア活動があるというのは最後のほうで入っていましたのですけれども、あえて、この地域の見守り支えあい活動を取り上げられているのはどうしてでしょうか。

○宇田川区民活動推進担当課長

こちらの「地域愛を育む人のつながり」というところで、現在、中野区の就労以外の社会的な活動ということで、中心的になる取り組みとして見守り支えあい活動というのがあるということで、そちらに着目しながら整理をしたということになっています。

○小池委員

すみません、不勉強でいけないのですけれども、具体的にどういった主体でどういった活動をされているのでしょうか。

○宇田川区民活動推進担当課長

見守り支えあいにつきましては、中野区のできるだけたくさんの方たちにかかわっていただくということを前提としてやっているのですけれども、特に中心的な活動としては、例えば、町会自治会の皆様が、見守り支えあい名簿を受け取ったり、また、受け取っていない団体でも、地域の皆さんの暮らしぶりですとかそういったことに注意を払いながら、

例えば、見守りで巡回するとか訪問活動をするとか。それから、町会自治会の皆さんの取り組みとして、居場所をつくっていったりとか交流の場をつくっていったりとか。そういったことをされているところが中心的な活動になるかと思います。

こういった活動に民生児童委員の皆さんですとか、それから地域の医療機関の皆さんですとか、包括支援センターですとか、そういったところがつながりながら見守り支えあいが広がっていくことで安心安全な地域をつくっていくという考え方でございます。

笠尾委員

私も質問よろしいでしょうか。このボランティアというのを、支えあい活動とか、それを仕事じゃない部分としてボランティアと振り分ける。つまり、ボランティアというのを特別何か支えあい活動の中から切り出してしまうように見えるのですけれども、その辺は、もっと一体的にできないものなのですか。仕事としても支え合いができている部分は多分あると思うのです。それと切り離して、ボランティアの部分だけ出してきているというようなやり方が、もしかするとボランティアというのはおもしろくないもの、みたいなイメージがあるような気がするのです。

それは、例えば、私、放課後デイサービスの方と絵を描いたりするのですけど、ボランティアをしたいわけではないからと。ボランティアということが中心にあって、何をするからそれにもボランティアが必要な部分だという順番が逆になって、ボランティアが先になってしまって、それでイメージが悪くなっている感じがしているのです。

何か政策のやり方として、お金が出る。ボランティアでも、本当だったらお金が出たほうがそれはいいわけで、最近は有償ボランティアとかもあると思うのですけれども、そういう流れの中で、全体があってボランティアがこうだよというのが見えたほうが健全なイメージがあるのですが、いかがでしょうか。

○宇田川区民活動推進担当課長

こちらの資料の整理の仕方として、「地域愛を育む人のつながり」というところに焦点を当てていますので、ボランティアという活動の中で、地域愛を育む活動に近いものということで整理をしたところだと思います。なので、幅広いボランティアということ。

○笠尾委員

私が言っているのは、そういうこととちょっと違うのですけれども。地域愛というか見守りの活動が必要だとして、それというのをボランティアの部分だけ切り出さないで、もっと本格的な活動として見て行くと。その中にはボランティアもありますという見せ方に

していかないとよろしくないのではないですかと。

例えば、こういう資料とかもボランティアありきでボランティアだからこうですよと言ってしまうと、ボランティアはこういうものなのだという感じになってしまうので、それはよくないのではないですかというお話です。

○永見基本構想担当課長

ご指摘ありがとうございます。確かにこの「地域愛を育む人のつながり」ということで、ボランティアが全てではないかなと、今、委員おっしゃっていただいて、そのとおりだと思います。

ちょっと今回用意した資料としてはこのような形になってしまっているのですが、ボランティアとかそういう枠に捉われずに発言いただければ幸いです。

○岡井委員

すみません、宇田川課長がご説明いただいた、この 3-1 の資料の 27 のところで、就労以外の社会や地域との関わり。かかわっていない理由のところで、確かに知らないとか、きっかけがないとかとても大きいのですごく問題です。ここは絶対に避けては通れないと思うのです。一方で、より詳細な部分の実態調査報告書の、済みません、お手元にない方もいらっしゃるかもしれません。64 ページに、これは年代別にプロットした表が載っていまして、こちらのほうを見ると、確かにその情報がないというところは、どの年代も高いので、これが 1 つ課題。

もう 1 つ、活動する時間がないというところが、やっぱり 20 代、30 代、40 代を見るとものすごくずば抜けて。これは複数回答なので何割とは言いづらいのですが、20 代だと 49.0%。30 代だと 51.3%。40 代だと 53.3%が時間がないと言っているので、ここも避けては通れない。ちゃんと課題認識をここで議論することなのかなと思います。

○宮脇部会長

本当にそうですね。

○岡井委員

一方、とはいえ知らないというのもとても重要な問題で、これは、全年代のところで知らない、きっかけがないというのがあるので、一概に若者とか 30 代だけとは言えないのですが、前回のときに、私、今 50 歳なのですけど、ここでなぜか SNS の話をよくしていたのは何でだろうと思って、後でいろいろ調べたのですけれども、ここにいらっしゃる委員の方の中で 9 名いらっしゃったのですけど、SNS、フェイスブックかツイッターかインスタグ

ラムをやっている人というのが、どれかをやっているのが 2 人だったのです。だから、自分がはりきってそれを言わなければいけなかったのだとわかってきたのですけれども、ＬＩＮＥはちょっと匿名もあるので調べていないのですが。

大体 30 代くらいの人だと、ＳＮＳを何かやっていて、そこの発信の情報を見ますと。フェイスブックだと、中野区役所も発信をすごくされていて、よく取材されている記事でおもしろいので、すごく楽しみにしているのですけど、ツイッターのほうは確かないですよね。ありましたか。

○高村広聴・広報課長

一応あります。

○岡井委員

ありますか。類似でリフォームのところにリンクが張ってあって、そこに飛ぶような危険なものとかあったのですけれども、あとインスタグラムもやっているのですね。

○高村広聴・広報課長

やっていいないです。シティプロモーションでやっています。

○岡井委員

ちゃんとした統計はないですけど、やっぱり 20 代になると、フェイスブックとかやられている人はほとんどいなくて、インスタグラムばっかりですよね。ツイッターがまた回帰をしているみたいなことあるのですが、こういったものでの発信というところも、例えば、きょうも LEC さんがごみ拾いをやられたというのがありましたけど、こういうものも何か事前に発信があって、かつインスタとかで 20 代の人とかにも届くような形になっていると、きっかけとしては提供できる。こういうことがあるので、やっぱりＳＮＳというかＩＴツールというものをもうちょっとうまく使ってほしい。うまくというのはターゲティングです。マーケティングの世界だと思いますけれども、どういう年齢層にどういうツールで何を伝えるのかというところを多分やられていると思いますけれども、そこをよりやっていくというのが 1 つ。若者の年代のところについては重要なことなのかなと思います。

○宮脇部会長

ありがとうございます。

○岸委員

地域愛という大きな包括的なテーマなのに、この近隣の見守り支えあい活動でぎゅっと落とされてしまうと、それだけなのかという感じがしてしまうところがありますが、結構

びっくりしたのが、やってみたいけどちょっと時間がないという方が多いことです。やってみたいという感想を持っているのかというのは驚いてしまうのですけれども、かなり地味な、高齢者を訪問したりとかちょっとお話をしたりということを含む活動です。本当に内容をわかってやってみたいと思っているのだったら、大変モチベーションは高いですけれども、恐らくあまり知らなくて名前でもって、結構いい活動なのではないかなと感じている人が多いような気がしているのです。

ということは、別に直接何か手助けをすることができなくても、いろいろな人ができる範囲でかかわれるようなチャンネルがないと、なかなか皆さんに興味を持ってもらえない。例えば、時間がないのであれば、何か映像を流すところで若干協力ができたりとか、情報を広めるということで手伝いますよということもあるだろうし、いろいろな世代にいろいろな形のいろいろな立場の人のかかわり方はたくさんあるので、こんなこともできるのだということを具体的にわかると、あまり直接的に見守り支えあい活動とかに参加しなくても、実はすごく地域愛をつくっていくことに参加することができると思います。

だから、自分でも参加できるところがあるなという教え方が一方向的なのかなという気はします。やっぱり外国の若者たちと日本の若者たちを比較した調査結果を見ても、物すごく日本が悪いわけではないような気がするので、うまく彼らの参加の仕方づくりみたいなのを開いてあげれば、もっと皆さん生き生きするのではないかと思います。

〇小池委員

地域愛のところで、ちょっと自分の経験上をお話ししたいなと思ったのが、私は田舎の出身なので、田舎の自分での活動のベースとか、家族の活動のベースというのを考えてみると、男性はみんな消防に入っていて、そこで地域の組織は体育会系であって、女性はみんな婦人会で世代ごとにあって、それぞれの活動のベースがあるわけです。ご近所づきあいというのがそこにさらにあって、何かをもらえばおすそ分けするし、何かつくり過ぎたからお礼に持って行くしというので、見守り支えあいと同じようなものが数字には評価できない状態で、既に存在しているわけですよね。

恐らくそれって中野区内にも既にあって、それはここで生まれ育ってずっとこちらにいる人たちにとっては当然あるもので、私みたいに学生時代から住み始めている人間でアパート住まいをしている者にとっては、何かちょっと遠い世界なのかなという気持ちがあります。

そういう人たちもきっとここで年を取っていくわけですが、そうなったときにどうなる

のだろうと考えたとき、SNS みたいなもので取ってかえることができるのか。でも、バーチャルなご近所づき合いって何か変ですよね。だから、先ほどのアンケートの数字に出てこない地域とのかかわりというか、ご近所づき合いみたいなものを促す方法はないのかなというのを、ちょっと今、お話を伺っていて感じました。

○横田委員

私も情報が提供されていないところには提供をしなければいけないだろうと思うのです。一方で、情報を提供したら食いついてくるというわけではなくて、情報もあまり関心を持っていない人にとっては、たとえあっても見ないわけですので、先ほどのご指摘にもちょっと最後のほうでふれられたと思いますが、何かそういう活動をするシステムというとちょっとがちっとし過ぎですけれども、例えば、見守りとかだけに限らず、中野プライドみたいなものの中にどういう活動があって、この中野プライドに参加しませんか。参加するには、こんなやり方がありますよと言っていろいろなやり方を開いてあげて、例えば、それを大学と協力して若い人たちに、中野プライドという全体の取り組みの中に、入り口が 20 個くらい用意されているから、どれかに参加してみませんか、というように呼びかけるとか。この中にこんな形だったら参加できるのだという具体的な一歩の踏み出し方がちゃんと示されていれば、あとは背中を押す人が少しいれば。例えば、この 20 の窓口に何人かずつよく経験をした人たちが後ろについて、初めての人に案内をしてあげるようなシステムとか。

例えば、20 の窓口のそういう人たちが自分の窓口について発信して、こんなことができます、おもしろいですよ。こういう人を求めていますというのを、それぞれやっている人が発信して、それ全体が中野プライドという 20 の窓口になってでき上っている。だから、入り口はこんなに身近にあって、一歩の踏み出し方はこれですよというところを、情報と人とで結びつけてやれば、何か現実に学生でも少し動き出す人がいるかなと思いました。

○小池委員

今、先生のお話を伺っていて、海外で住んでいたときのことをふと思い出したのですけれども、海外のある都市とかだと、新参者が最初に居場所として見出すところは宗教施設なのです。教会であったりモスクであったり自分の持っている信仰と同じ信仰を持っている人たちの場所があるというのが、とてもわかりやすいのです。

日本でそれってなかなかない中で、今、宗教と聞かれるとちょっと危なくなってしまいますけど、中野プライド的なものって何かわかりやすいのかもしれないです。

○笠尾委員

今、まさにそうだと思っていて、海外だと、ホームパーティーみたいなものが結構ありますよね。地域のホームパーティーとか仕事のホームパーティーとかいろんなところに行くことで、そことのつながりみたいなのが生まれるし、そういうところに積極的に誘われるみたいなところもあって。

だから、上から用意するというよりは、下のほうでそういうのが生まれてくるような土壌があるとか。そういうようなことが、まず大事なのだろうなと思います。それで、いろいろなところに何があるかというのがわかって、ただ、先ほど言われたような地域のプライドみたいなものですか。そういうものが把握していて、全体をネットワークできるようになっていくといいと思うのです。

例えば、地域愛とかでうまくいっているのは、ごみ拾いする活動をやっているグリーンバードがありますよね。

それってすごくうまくいっていると思うので、そういうやり方をもっと広げるといいのではないか。つまり、やること自体が楽しいとか、しっかりデザインされているだとかを大事にするといいのではないか。若者がインスタグラムを使うのは、格好いいからですよね。格好いい形に落とし込める活動は、例えば、ごみ拾いは普通に考えたら格好よくはないですけれども、それがグリーンバードがやると、みんなでやって格好よくて、終わった後にみんなでパーティーしたりとか酒を飲みに行ったりとか、そういうことも含まれてくるわけですよね。

ですから、うまくいっている事例を、もっとほかのところでも広げられるようなことをしていければ、よろしいのではないのかと思います。

○宮脇部会長

いろいろご意見ありがとうございます。今の説明というのは、トリガーとしてこの近隣とかかわりを持っていくというところをご説明いただいたと思うのですが、最初にご指摘いただいた、社会や地域とのかかわりという全体のイメージというのが、ご指摘のとおり、わかっているようでわかっていない。いろいろ多彩なものがあるって、そのうちの１つがボランティアの例でもありますよねということでした。

今回の基本構想とか基本計画の中で、中野区としては、この辺をトリガーにして入っていこうとしていますというのが伝わる内容とする必要性はあるのだろうなと、皆さんのご議論を聞いていて思いました。だから、そういう入口がたくさんあって、まず入口が見え

ないとなかなか接近できないし、恐らくアンケートを取っても、それはいいけどちょっとねという感覚的な議論になってしまうというのがどこに行っても多いのかなという気がしましたので。そういうところを念頭に置きたいなということ。

それから、先ほどおっしゃられたターゲットの住み分けについて。私は杉並区在住ですが、駅で配っている杉並広報がいっぱい余っているのです。もったいないなと思います。やっぱり広報なんかでもターゲットを20代、30代とか、年齢以外でもいろいろ分類はあると思いますが、そうやってターゲットを絞って、同じ内容のものであったとしても別の形で提示していくことは必要だと思いますので､そういったこともイメージできるような、部会としての整理というのをしていきたいなと思いました。これは次回、全体の整理をするときにご発言いただくといたしまして。次のテーマに進みたいと思います。

次ですけれども､「区内経済活動の活性化」ということで、まず事務局から説明をしていただいた後、お手元のほうにもう1つ資料が出ていますので、このご説明をいただくと。そういう順番にしたいと思います。それでは、よろしくお願いします。

○永見基本構想担当課長

それでは、同じスライドの33枚目から40枚目ということで、産業観光課長のほうからご説明をお願いします。

○堀越産業観光課長

それでは私のほうから、33ページから8ページ分のご説明をさせていただきます。33ページ目に産学公金連携の取り組みとして、中野区認定特定創業支援事業という表題がついております。この認定特定創業支援というのは、国の産業競争力強化法に基づく事業として行われているものでございます。この産学公金というのは、産業界と学校。公というのは基本的に区。金というのは金融機関のことを指しています。

この図で見ますと、産が東京商工会議所さんになります。公というのは中野区。金は西武信金さんなどです。ここにある産業振興センターというのは、区の指定を受けて事業を行っている組織でございます。その他の連携機関ということで、ICTCO等がございますが、次のページに説明がありまして、大学等の教育機関と連携しながら進めていく事業があります。

この認定特定創業支援事業を行いますと、いろいろセミナーを受けた方が登記をするときに割引があったりですとか、様々な特典があります。この特典は、そういう創業に結び付くような仕組みになっております。

次のページ、34ページでございます。先ほど申し上げましたICTCO、正式名称が一般社団法人の中野区産業振興推進機構ですが、こちらは独立した組織でございますが、区は、このICTCOを支援しています。独立した機関なので、区が直接支援する立場ではないのですけれども協定を結びまして、区のさまざまな課題について協力をあおいでいるところでございます。

主な事例でございますが、住宅の残余価値診断研究という少しなじみにくい言葉なのですが、NPOと連携いたしまして木造住宅の耐震残存、残った価値のことです。それをIoT技術のセンサーを使いまして自動計測できるようなものを先進的に研究しているところでございます。また、中古住宅の流通を促進するための実装例等を示す講演会を、昨年と今年実施しました。

2つ目は、三世代学習環境構築研究というもので、こちらは音楽会などを開催し、お子さんと学生さんと高齢者の方などを対象に演奏会の後に自由な意見交換を行い、世代間交流の促進などを図っているものでございます。

3つ目が、地域防災の減災空間構築研究というものです。こちら、2018年に実証実験、水防訓練を行いまして、今年、区民の方100名くらいに研究の成果を確認していただいた催しを開催しました。これは、浸水予測システムの説明をしながら行ったものでございます。

35ページ、次のページでございます。これは他区での事例でございますが、墨田区でも同様に、こちらは産学官金連携という形ですけれども、各大学ですとか信金さん、あとは中小企業振興公社ですとか東京商工会議所さんなんかと一緒に連携いたしましてネットワークを活用しながら支援を行ってございます。

次のページが法人登記数でございますが、こちらは過去3年、2016年からの3年間、徐々にふえているところでございます。法人の増加や経営の安定性が図れるように、産学公金連携などを強めました支援を行っていく必要があるというところでございます。

次のページでございますが、区内の事業者数、こちらは減少傾向にございます。産業の中身については、中野は小売ですとか地場産業とかが多いのですが、全般的な事業数は総体的に減っている傾向にあります。ただ、起業支援の取り組みといたしまして、今、行っております取り組みは、経営相談、創業相談ですとか、創業セミナー。あとは、創業支援資金、これは融資です。その他にビジネスプランコンテストを行っておりまして、新たなビジネスがつくられるような発掘を目指しまして、平成25年度から開催しているものでご

ざいます。

資料にはないのですが、中野区では重点産業といたしまして、ICT コンテンツ関連事業と、ライフサポート関連事業という 2 つの事業について重点的に融資を行っております。ライフサポートは少しわかりにくいのですが、こちらは生活場面をサポートする産業で、例えば、見守りとか安心につながるような事業ですとか、健康、介護、家事、育児など安定した生活を送れるように支援する事業をライフサポート関連事業として重点的に支援を行っているものでございます。

次のページは、商店街の状況でございます。39 ページになりますが、こちら空き店舗の推移でございます。中野区の空き店舗は、全国平均あるいは 23 区より低い割合になってございます。しかしながら、中野区で微増といいますか空き店舗率は上がってきているところです。2018 年は 9.7%、1 割くらいが空き店舗になっているという状況です。

40 ページ、最後のページでございます。こちら空き店舗活用ということで、事例の 1 は中野区の事例でございます。薬師あいロードにあります「あいロード広場」、こちらは、商店街とか、地域のサークルなどにスペースを貸し出したり、お買い物をする方の休憩場所として開放をしていただいているものです。

あとは、板橋区と大田区の事例がございます。板橋区は全国の特産品を直接契約して売っているアンテナショップ。大田区は、子育て支援といたしまして、ママ友さんたちが気軽にワンコインで使えるスペースとなっています。

私からの説明は以上でございます。

○宮脇部会長

ありがとうございました。それでは、米持さんのほうから、この A4 の 1 枚紙を配らせていただいておりますが、こちらのほうのご説明をお願いします。

○米持委員

この紙の前に、全般的な「区内経済活動の活性化」のところでちょっと質問をさせていただきたいのですけど、いいですか。

産学公金連携の取り組みで、今 ICTCO さんでやられている 34 ページの提携事業というのがございますが、それが産業振興の何に結びつくかとか、この研究をすることで着地点というか、区が目指すべきもの、何か指標になるのか。これがちょっとわからなかったのでご教示いただきたいと思うのですが。

○堀越産業観光課長

これは、研究中心の予業が主に挙がってございますが、事業化に結びついて本当に軌道に乗って利益をかなり生み出している事例は、誰もが知っている事業があるかというと、まだそこまではできてはございません。ただ、口腔ケアのサービスなど実際に事業化して、区民の方にご利用いただいているところもございます。

ICTCO の設置目的でありますが、先ほども申し上げました区の重点産業である ICT コンテンツ関連事業ですとか、ライフサポートビジネスの支援を行っていくところの一部を~~を~~担ってもらっているものでございます。区の施策上には、当然位置づけられているものでございます。

○米持委員

わかりました。私は東京商工会議所の代表として本日参加させていただいておりまして、工業産業協会というところでも役員をさせていただいております。実は、ICTCO さんがやっている内容というのが非常にわかりづらいのですが、それを明確化してくれと言ってもしようがないので、我々と一緒にやりませんかというのが①でございます。一緒に手を携えたらどうかということで。

今、産業支援拠点として ICTCO さんや東京商工会議所があります。創業支援ネットワークという言葉が比較的わかりやすいのかなと思うのですけれども、こういう輪になっているのですが、どうしても ICTCO さんだけ我々とあまり接点がなかったりします。やっていることがわからない。それならば、一緒にしてしまったほうがいいのではないかと。産業振興という同じ視点では全く一緒だと思っておりますので、そちらのほうをやっていくという。

各論になってしまうので、最終的には細かい各論には落とし込めないと思うのですが、皆さんのお困りがこの 2 点だったので、2 点のほうに着目させていただきます。

産業振興拠点の設立・強化ということで、今点在している中野区産業振興センターや ICTCO、東京商工会議所中野支部、その他で経済団体でいうと、中野区工業産業協会と、中野区商店街連合会。産業振興センターに拠点を移して一緒のところで風通しよくいろいろと意見交換ができるものを設立してはどうかということが①の内容でございます。

②が、全くここの中に入っていないのですが、事業者数が減少しているという、さっき 37 ページの資料にもございました。いろいろな要因があると思います。我々商工会議所の会員の中で非常に多くある事例は、建築基準法の話になりますが、用途地域が変更になったことによって、事業を継続できず、建物の建てかえもできないということで事業拠点を

移すということがございます。こちらの見直しについて検討してもらいたいのです。建築基準法のことは専門的な話になってきますし、ここで議論してもどうかと思いますので、関係部会と思われる都市・防災・環境部会のほうに、全体会等で、部会長からご提案いただきたいという内容でございます。

ちょうど、都市づくりグランドデザインというのがあり、こちらをもとに、東京都が20年ぶりにどんどん見直していく1つのきっかけになっているので、こちらのほうを都市・防災・環境部会のほうで後議論いただきたい。必要があれば私から説明させていただきますので、ご検討いただきたいということでございます。

あとは、補足ですけれども、IoTを重点施策、創業支援ということで中野区さんのほうはやられていると思うのですが、既存の事業所の継続というところのご支援も今まであって。私もそうですけど、比較的経済界には若い人が結構いらっしゃいます。そういう方々が中野で事業を継続したいと思えるようなまちづくりというものを少し検討していただきたいと思っております。

以上でございます。

○宮脇部会長

ありがとうございました。個別の話ですけれども、非常に重要なお話だと思います。基本構想の段階で、どういう表現をとるかという問題があります。基本計画で、特に個別計画とかの段階である程度視野に入れていただけるような基本構想の整理の仕方というのを考えていければなと思っております。ご議論いただくことは非常に重要なことだと思います。

1点だけ、説明のところで確認させてください。36番と37番なのですが、中野区で新たな法人登録数がふえています、区内の事業所数は減少していますというグラフがあるのですけれども、これは例えば、東京都全体や近隣区の状況というのはどうなのでしょう。

○堀越産業観光課長

中野区だけの法人登記数のデータが手元にないのですが、事業所数は、東京都全体も同じ減少傾向です。

○宮脇部会長

中野区の動向と東京都とかの動向というのは、大体同じと認識してよろしいですか。

○堀越産業観光課長

大きな違いはありません。区や業種によって多少の違いはございますが、例えば、中野

区は情報関係は横ばいだったりとか、そういったおおまかなところの比較で言いますと、極端に中野区が東京都全体と違った傾向をしているということはないです。

○宮脇部会長

要するに、中野区固有の問題と、それからちょっと大きければ日本、東京全体の問題というのは、これだけだと区別ができないということですね。

○堀越産業観光課長

そうです。

○宮脇部会長

わかりました。中野区だけ特別な動きをしているのかあれなのか。

○米持委員

減少傾向は、事業継承の問題が多くあります。税制の話とか2代目がやりたくないとか多岐にわたってありますので、減少傾向にあると思います。

先ほど申し上げました、用途地域のところに関しては、中野区特有の事例ですが、近接区である渋谷区さん、新宿区さんと比較して住居系が圧倒的に多い、ということがございますので、そちらのほうを見直していただきたい。そこは専門部会でご検討いただければと思います。

○堀越産業観光課長

1つだけ補足をいたします。例えば、工業産業は23区で一番低いランキングであり、もともと住宅都市という特色があります。卸、商業系ですとか不動産業、宿泊業、飲食・サービス業など、いわゆる用途地域でいう商業地域が多い区ではなく、住宅系の用地が多い区ですので、企業等が一気にふえるかというと、なかなか用途地域的にも難しいというのが実情でございます。そういった生活に根差したような産業がもともと多い特性を持っています。

○宮脇部会長

その線でいくと杉並とか世田谷とかが同じでしょうと言いたいのですが、これ以上はやめます。次、いきます。委員の皆さんから。

○岡井委員

経済活動というのは幅広くいろいろあるのですけど、今、出たのは主に、区内の既存の産業をどのように継続・維持させていけるかという話だったと思うのですが、お手元のプリントにも書いてある「区内経済活動の活性化」ということなので、どちらかというと増

えていくイメージまでもっていかなければいけないのかなと勝手に理解したのです。そうすると、外でいろいろ活動をされていたり新たにつくる産業が入ってこないといけない。

自分も、企業家でかつ20社くらいアクセラレーターをやっていますが、中野区では本社を持っていないのです。中野がこんなに好きなのですが、経営していると好き嫌いだけではだめで、合理的判断をしないといけない。そこで考えたときに、どうしても中野に本社を置きたいという特徴がないのです。頑張っていないということじゃなくて、どこの区も同じように今、事業所が減っていて、いろいろな産業を生もうとして頑張っているので、みんなが頑張っているから金がないということだと思うのですけど。その頑張り以外に何か特徴があると、ここに置きたいと、自分も置きたくてたまらないと、できるかなと。

それは何ですかって言われると、いろいろアイデアを出さなければいけないところだと思うのですが、笠尾先生がおっしゃったように、いろいろやりたい人たちは動くのだけど、それが活動しやすい状況を作ることが必要だと思います。例えばで言うと、今、ICTCOとか商工会議所のほうで経営に関する情報とか人脈はいっぱいあるのですけど、そこにはそれしかない。それ以外のいろいろな、芸術とか学校とか文化施設とかいろいろな情報が経営に関する情報と絡めてあると、それを使っていろいろできる。自由に活動しやすい環境があると、とてもやりやすい。お金は、正直地球上であまっているので、ファンドもＶＣも出資したくて仕方がないので、お金には困らないのです。人では困りますけれども。

経済から少し外れてしまうのですけど、Ｊリーグの社会連携の委員も実はやっていまして、最近は、シャレンというプラットフォームが作られました。そこには、年間約1万8,000回実施されるＪリーグの54チームの社会活動が全部そこにのっています。例えば、先ほど話題にあがったグリーンバードも、東京ヴェルディのスタジアムや東京FCのスタジアムに行ってごみを拾って帰ってくると、末端の席ですけど無料で試合を見られる。そういうようなことをやったりしている。これをどのような企画でやりましたというこのが全て載っているのです。そうすると、ほかのチームやNPOもいいなと思った企画を真似してやることができる。これを産業版に応用して、中野に来たらそういう情報が連携していっぱいあるよみたいなのがあると、例えばですけど、魅力になるのではないか。これに限らず何か中野ならではの魅力があると集まってくるかなと思います。また、そういうのが基本構想の中に盛り込まれれば素敵だなあと思っております。

○宮脇部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

○横田委員

中野ならではのものについて、ご自身で起業したり、あるいは中野に本社を置きたいけど、ちょっとそれを躊躇してしまったという人たちが、中野ならではのこういうものが欲しいのだよねなんていうことを議論する場というのはないのですか。

○岡井委員

企業家とかそういう人たちでいうと、別に中野でないといけないわけではないので、それを議論することはないです。

ただ、たぶん区の方でされていると思うのですけど。

○堀越産業観光課長

産学公金連携でいうところの産業振興センターですとか、あとは、先ほどおっしゃっていただいた商店街連合会や金融機関などが入った調整の会議を年3回ペースで開催していまして、そちらで意見交換や情報共有をしていただいているところです。

ただ、そこで例えば、委員がおっしゃるようにそういうような形で、こんな取り組みをしようじゃないかみたいな議論はまだこれからなのかなというところでございます。

ICTCOの活動につきましても、やはり企業単位です。マッチングみたいなものはしているのですが、区全体を補てんしているかというところですと、なかなかそこまでの範囲はカバーできていません。これからです。

○岡井委員

確証が別にあるわけではないですけれども、縦で産業を何か考えるのではなくて、横でいろいろ活性化を図っていくのがよいのではないでしょうか。経済だけではなくて文化もとか、地域もとか、盛り上げ課ではないですけど、横串のようなものがあるとまた変わるかもしれないです。

○米持委員

商工会議所も後援になっていますが、ここ数年やっている中野ランニングフェスタというイベントがあります。観光協会を含めて、8団体くらい仲よくやっている中野の人たちがいて、みんなでやろうやろうみたいな話から始まったイベントです。そこにどうしてもICTCOさんというのは、我々としてもキーワードとしてぴんとこないところがありまして、何か接点がなくはないのでしょうけど、少なくとも我々みたいに、例えば若手の経営者との接点というのは非常に少ない。だったら一緒にやってしまったほうがいいかなというシンプルな考えでありました。

だからITCコンテンツを多分中野区さんが今、推していて、創業支援はそこをなるべく手厚くしようというのが非常にわかっています。そうであれば、我々と一緒にやりませんかという話でありますので、あそこだけ何となく独立している雰囲気はあります。正直なところ。

○宮脇部会長

ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○笠尾委員

質問よろしいですか。住宅が多いという特徴があると思うのですけど、商店街は重要な位置にあるかと思うのです。中野区では、商店街に対する振興については、どんなことをされているのでしょうか。

○堀越産業観光課長

主には、商店街、連合会等の団体への支援というかたちですが、東京都はいろいろな支援のメニューをそろえてございますし、そういった制度について、区も一緒に丁寧な説明をしたりですとか、ご相談に乗ったりなどを基本的にはやっています。

○笠尾委員

商店街は、子どもが通学しているときの見守りとかにも貢献してきたかと思います。最近は、レジとかも横向きだからあまり見えないですけど、昔のお店はみんな外側を向いていますよね。周りに誰が歩いているかも見えるとか、そういうこともあって、商店街というのは、結構多機能になっているのです。そういう中で、どう商店街を振興していくかというのは、特に中野区のようなところだと重要だと思っています。補助金が出ても空き家になっていてどうしようもないところの家賃の補塡に使われてしまっていたりする話も聞いています。単に、こういうところでお金が欲しいからということだけで出していると、いつまでも何か同じ関係になってしまうので、そうではなくて、商店街の方がどう動かしていきたいかということを、やはり下から出てくるようなものをうまく吸い上げて機能させていけるようなシステムを作るとか、もうちょっと積極的に活性化できるような策ができないものでしょうかということなのです。

○堀越産業観光課長

産業振興ビジョンというのがありまして。全体の中に、商店街というものはコミュニティも資するものであり、支援していくという方向付けはされていますが、区内も南北に広くて、線路も3つありますので、どうしても個性が豊かといいますか、商店街ごとにいろ

いろなカラーがありまして、いろんな区民の方がいらっしゃる。それをいろいろな支援ができればベストなのですけれど。お店が入れ替わった結果が約 10%ですので、例えば区の補助がなくても、自立的にやっていく力のある、自立性の高い商店街さんは、特に補助金とかを使わなくても自動的に入れ替わったりしています。一方、やはり何か区の支援がなければというところもあり、その辺のバランスは少し難しいところがあります。商店街が 70 くらいあるんですが、ものすごくきめ細やかな支援、というところまでは至ってないという状況です。

そういった中野区の特性を生かしながら、使える補助金の種類はたくさんありますし、経営支援のほか、若い方とか女性の起業を支援するようなセミナーもご紹介するなど、いろいろなパターンで支援しています。

○笠尾委員

補助金の話は例として出しているだけなのですけれども、縦割りというか個別の案件、個別の案件ではなくて、商店街にどうあってほしいというか、どういう機能があってほしいかとか全体の中からそれぞれのお店のことを考えていくような感じにならないものかなと思うのです。

○宮脇部会長

今のご指摘は非常に重要で、最初に人のつながりというところでもご指摘いただいたことと共通なのですけれども、我々、基本構想をつくるに当たっては、例えば、今回のこのテーマでいきますと、まずは活性化とは一体何か、我々はどう考えるのか。その部分をきちんと押さえたうえで、そこから枝葉を考える必要があると思います。要するに、所得が伸びていけば活性化なのか。今聞いている限りでは、中野区はそうではないのかもしれない。今日すぐに結論が出るわけではなくて、いろいろなご意見をいただく中で、我々として、活性化はこう考えなければいけないよねという枠組みを、区のほうにお戻しをして、それをベースにしながら基本構想とかそういうものをおつくりいただく。皆さんからの意見は、非常に重要なご指摘だと思うのです。

したがって、我々としては、そういうご意見をいただきながら、部会があと 2 回あるわけですから、途中の審議会のいわゆる全体会に対する報告というのは仮のものですから、その間にきちんと我々としては考えていく必要性があるのかと思っています。

ただ、すぐにここで結論が出せる問題ではないので、もうちょっと考えていきたいなと拝聴しました。

○横田委員

具体的に、商店街の活性化とは何かを考えるときに、商店街とはどのような機能をもっているのかを洗い出す作業が必要ではないでしょうか。

そうすると、この機能はよく働いているけれども、別のこの機能はほとんど働いていないとか、中野の強みと弱みも明らかになると思います。また、今は機能として働いていないけれども、これから必要な機能として育てていく必要があるということもわかってくるかもしれません。

○宮脇部会長

そういうご指摘は、恐らく答申のときに基本計画とか個別計画を立てるに当たって、そういうことをちゃんと踏まえて整理をしてくださいということは言えるはずだし、それをちゃんと我々としては見ていく。これは将来のことですけれども、整理は必要かなと思っています。

それでは、一区切りつけまして3つ目の重点テーマで、「身近にある文化・芸術」というところについて、少しご意見をいただきたいと思います。それでは、この部分につきましてのご説明をお願いいたします。

○永見基本構想担当課長

では続きまして、42から44のスライドについて、今度は文化・国際交流課長のほうから説明をお願いします。

○藤永文化・国際交流課長

今の議論からすると、基本構想はこれからの未来10年後という話になる。今、私が説明するのは、今現状での区が持っている情報であり、区の事業であることが、ある程度一面的というのが前提としてあります。

42番ですが、「中野区の文化・芸術活動の現況」ということですが、文化施設と呼ばれる「なかのＺＥＲＯ」で、主に中野区がそういう場所でやっている事業とか、あと、区民の方の活動を記述しているものでございます。区と区民という言い方ですけれども、協働により実施するものというところで、中野にゆかりのある文化人や芸術家を迎えての公演「なかのＺＥＲＯ新春能」などをやってございます。

また、区内の近隣団体、企業、学校等と連携して実施するイベントとしては、中野区伝統工芸展・早稲田大学の文化交流事業コンサートの実施。

それから、区内文化団体の総合的な発表の場として、区民フェスタ。これは、文化展と

芸能展というものがありまして、区内芸能団体の方の発表会というものもやっています。

また、区民の方々が自主的に実施するものとしては、区内の団体やサークルの活動としてこの場を使っていただくというものとか、政策助成、後援名義等、補助事業等も実施してございます。また、区が区民に文化活動にふれる機会を提供するもの。これは主に、文化施設。指定管理者が実施しているものでございますけれども、こちらの指定事業、自主事業としてコンサートだったり、陶芸、絵画、子ども向けなどの事業もやってございます。

次のページですけれども、「中野区民の文化・芸術活動状況」でございますけれども、中野区区民意識調査からの数字を拾ってございます。区民活動センターでの趣味の活動やカルチャーセンター。これは民間のカルチャーセンター等を利用した趣味の活動の推移が記載のとおりでございます。

あと、文化施設の現状ですけれども、これはあくまで中野区の所有する文化施設、社会教育施設「もみじ山文化センター」（なかのＺＥＲＯ）がありますけれども、こちらのほうには 1,300 席のホールとか、多目的ホールとかがそろっている。あと、西館がございまして、西館のほうに小ホールがございますけれども、そちらのほうの利用状況と稼働率の推移になっています。

また、野方区民ホールがございまして、こちらのほう 250 席のホールでございます。また、なかの芸能小劇場、社会福祉会館スマイルなかのの 2 階にあるホールですけれども、そちらのほうでは落語やお笑いなどの事業が実施してございまして、その推移が右のところでございます。

中野区の文化施設等の状況については以上でございます。

○宮脇部会長

ありがとうございました。

○笠尾委員

何かここだけ資料が少ないのが気になるのですけれども。いっぱい資料を用意していただいたほうがいいのではないかというのが、私の感想です。

どうですかね。最初のときにも、中野に美術館が欲しいみたいな話も出ていましたけれども、やはり何かしらの拠点となっていく部分というのがないと、この場としてというよりも人間の組織になるのかもしれないのですけれども、そういう拠点をどうつくるかだと思うのです。

だから、確かに場がなくても拠点はつくれるような気がするのですが、それならそれな

りのやり方を考えていかなければいけないので、多分、多くの人は何かそれをつくりたいということは、場所が必要だよねというところにいってしまうと思うのですけど、場所だけのことではないので、そこをどうするか。中野区らしいやり方を見つけていくというのが重要なのではないかと思います。

○米持委員

質問なのですけれども、昔、桃園小の跡地のところにあった拠点と呼んでいた施設があったのですが、あの後は何かそういう拠点や場とか提供するというのはあるのですか。

○藤永文化・国際交流課長

それはないです。

○米持委員

ないですか。わかりました。

○小池委員

前回からの繰り返しのお話になってしまうかもしれないのですけれども、現状については、私も勉強してきていますので理解をしていて、これからの話をあくまでしていると、そう思って聞いていただきたいです。

文化が所管としてどこにあるのか、施策として何に力を置かれているのかというところから考える必要があるのではないかと思っています。組織的な位置づけから言うと、一般的な例として、首長部局の中に文化振興課として単独で存在している場合と、中野区のように、国際交流の近くに置かれている場合と、観光の近くに置かれている場合というのがあります。

また、国の施策で文化振興法ができてから、教育委員会に置くあるいは戻ってくる例というのが増えてきています。もともと文化を、教育委員会から首長部局に移していたけれど、また教育委員会に戻すという傾向があるということです。だから、教育委員会の中でも文化振興というのが単独で存在している場合と、文化・スポーツみたいな形で置かれている場合とがあります。

それはどこと一緒にしていくのがより効果的なのかというのを考える中で、移動性のない文化の居所という視点がまずあるのではないかという点を、専門的な立場からお伝えしたかったことがひとつあります。

次に、先ほどありました拠点のような話なのですけれども、文化とスポーツの外郭団体はなくなってしまった。今、民間の指定管理者がホールをやっているという中で、その役

割を指定管理者に担わせていくのか、それとも、新しい主体を持つのか。そのときに、そこは直営なのか法人格を通していくのかということが出てくると思うのです。あるいは志のあるＮＰＯがあればそこでもいいのではないかとか、そういった今後の交通整備だと思うのです。その文化にかかわっている人たちの受け皿のつくり方といいますか、先ほどの空き施設の活用みたいなところと結びつく可能性もあるでしょう。既にいろいろなところにある文化の種というか素材みたいなものをどう効果的に集めていくかということが問題かなと思うのです。

○宮脇部会長

ありがとうございます。これは組織的な位置づけというのは変わっていないわけですか。

○藤永文化・国際交流課長

変わっていないです。

○横田委員

文化とか芸術はかなり広く使えるし、まだまだ使っていないところがたくさんあるようで、とてもいい戦略だと思うのです。そうすると、文化が観光とだけくっついてしまうとか、スポーツとだけくっついてしまうのではなくて、もっと多様なところで文化・芸術をどう使うかという戦略を出していかないともったいないと思います。

文化・芸術といっただけで、学生も、若い人たちも結構入っていきやすい入り口がつくれるし、公共性の側面もあるし、私の関連からすれば多様性、外国人だけではなくて障害を持った人たちも含めて、文化・芸術が入れるところをもっと拡大してやれるような戦略がほしいなと思います。

○笠尾委員

イメージとして、ふだん、高齢の方と話をしているので、中野区はスポーツばっかり力を入れて文化がないみたいなことを言われるのです。いろいろな施設にしても、あそこの木を切った、あれを壊してそれで何かになってみたいな話とか。それで、スポーツばっかりではなくて、ちゃんと文化もやろうよみたいなことを、私のところに来てよく話をしている人とかいるのです。

だから、もっと文化に力を入れていただいたほうがいいのではないかと思うのです。何か方向性としてはそうなってきているのかなとは思うのですけど、いかがでしょうか。

○藤永文化・国際交流課長

去年までは文化・スポーツ振興課。まさにおっしゃるとおりで、旧社会教育事業です。

そういうくくりの中で文化施設と社会教育と社会体育と呼ばれる分類で実施していた。それは、首長部局に移ったところで、区長がリーダーシップを取ってやっていくということになりましたけれども、力を入れるというのはどこまでかというのが、また１つありまして、施設をつくるということであれば、施設をつくるっていうところまではいっていないという現状です。

○笠尾委員

組織的には、そちらの方向を向いているみたいな感じで考えていいのですか。

○藤永文化・国際交流課長

結局、文化・スポーツ振興課というのがありましたけれども、それを分解してスポーツと文化は分かれて、文化と国際交流を一緒にしたということで、ちょっと組織論だけで、それが全部具現化するかは別ですけど、それは１つの方向性でありますので、何かしらコンサルティングとか、そういったものを出していくと考えているところです。

○笠尾委員

今、質問をさせていただいたのも、まさにそこが変わったからお聞きしていて、変わったことによって、何か新しく文化のところに力を入れていくっていう具体的な案とかがあれば、それをお聞かせいただきたいなと思ったのです。もしないのであれば、もっともっと力を入れていただきたいなと。

○藤永文化・国際交流課長

今は案ですけれども、やはり区政が変わりまして、区民が主役という考え方が強く打ち出されていると思っています。区民の方々の文化活動の支援というところに力を入れていこうかなと。それは全然公にはなっていないですけど、やっていこうかなというのを検討しています。

○高村広聴・広報課長

関連して、区報のリニューアルを７月にするのですが、文化的なことで活動している人にスポットを当てて、月に１回区報で取り上げようと。もちろん政策というレベルではまだないので、藤永が今説明したように、まだまだ今は、そういう方向を向いているだけですが、そういった取組はあります。

○藤永文化・国際交流課長

もう１つつけ加えさせていただくと、多様性という言葉が今後基本構想の中で出てくるならば、やはり、いろいろな構成の方々が出てくる。例えば、外国人の方が文化を発信さ

れるということはあるだろうし、障害者の方々の文化活動の支援をどうやっていくのかというのはあります。中野区はアール・ブリュットの活動もある。

卵か先か鶏が先かじゃないですけど、まさにそれを議論しているのが基本構想であると。その答申の中でいろいろなものが出てきて、そして、その次に基本計画のいろいろな個別事業が具体化されていく。今、担当としてはそういうものなのかなと思いつつも、まさに、それを基本構想で議論しているし、私たちも入ってやるというのが現状かなと思っています。

○小池委員

前回も申し上げたのですけど、今は文化振興条例と文化振興計画がない自治体のほうが少なくなってきているのではないかなと思うのですけれども、これから整備していく予定は、ありますか。

○藤永文化・国際交流課長

その条例をやるのか戦略を作るのかというのはまだ先の話だと思っております。

○岡井委員

私、日本文化政策学会員でございます。これは文化・芸術はいろいろ施設や、緑の保全とか物すごいお金がかかるものだから、個人的な意見ですけれども、そっちにものすごくお金をかけているというのは、やっぱり今後の税収とかいろいろ考えていくと、今回あまり得策ではないような気がしていて、一方で、さっき横田先生や宮脇先生がおっしゃったのですけれども、中野区の中にはいろいろなネタがありますよね。いろいろな活動がすでにあって、どこで誰が何をやっているか補足するのが大変なくらいいっぱい開催されている。文化をどうすると言うよりは、こういった文化的な活動を生かして中野をどう活性化するかというところを議論していくと、とても魅力的な構想ができて、そういうまちならちょっとそこに本社を置いてみたいなというのもあるのかな。

具体的に何かっていうのは何も答えられないですけれども、何か特徴的でおもしろいまちであれば、名刺に住所を入れてみたいとか、住みたいと思う人は何割かはいると思います。

○宮脇部会長

そのとおりだと思います。我々としては、このテーマであれば、「身近にある」って何か、ということではないかと思うのです。

外国人の方とか体の不自由な方々の「身近にある」ことも含めて何なのか。先生が言わ

れるように、施設があるとなしとではなくて、空間の中でやれる。そこの部分のコンセプトみたいなものを、まず我々としては区側に提示をしていく。

先ほど説明がありましたけれども、恐らく今、条例をつくれと言ったらキャッチフレーズ的な条例で、法規範にならないようなやつができてくるのだろうなと思います。それがないように我々としては、先ほど来申し上げているような部分をきちんと提示していくことがまず必要だと思います。皆さんからのご意見というのは、冒頭お話がありました、個別に落とし込んでいく、つなぎ手を考えていく、提示していくことだと思うのです。だから、今日ご議論いただいたことは非常に重要で、我々も1つお願いなのですけれども、こうやっていっぱい意見をいただいて、私も事務局と一緒に「身近にある」というのを考えていきたいと思うのですが、委員の皆さんも、こういうコンセプトで言ってみたらどうなのというようなことを、頭のはじにおいて、全部の分野について考えていただければと思うのですけれども。

高橋さん、何か今日感じたことでもいいですが、ご意見ありますか。

○高橋佐智子委員

今日の議論は、ちょっと私にとってはすごく難しいです。

○宮脇部会長

わかりました。

そのほか、もう一度戻りまして全体的に何か感じているところと、あるいは落としているところですね。こういうところがあればご発言いただければと思います。

○岡井委員

最初のテーマの地域愛のところで、自分に置きかえてなのですけれども、こういうことが問題かなと思っていることが3点あります。

1つは、まず全部がリアルな場である点。今日みたいな会議は難しいのかもしれませんけど、場合によっては今、オンラインでいろいろな打ち合わせを民間では普通にやっているし、いろいろ研修や講座を受けるときもオンラインでやっています。物理的に会場まで来ることが難しいときでも、地域の会議や打合せのために時間がとれるかもなというのが1つです。

もう1つは、極端な例なのですけど、島根県の雲南市は、3万人くらいの人口、中野の10分の1ぐらいの規模ですけど、人口が減っていっていて、すごく高齢化していて、85歳以上が半分以上。役所の予算も減って、職員もどんどん減っている中で、町会・自治会

で行う行事が多かったけれど、行事をやめて福祉経済活動に特化してやっていくみたいなこと。あとは、会議を必ずやって話すことより、現場を大事にするスタンスでいく。組織の棚卸しをするにも、いろいろ分かれ過ぎていると、分かれているだけ会議があるので、一本になると5分の1とか10分の1になるということでやっている。あと、私もそうなのだけど、運動会がある日にセントラルパークで防災の何かイベントやっているとか、チャンプルーフェスタやっているとか、分かれていると全部参加するのは無理です。これが例えば、運動会だと、ホースを運ぶ競技があって、運動会と防災訓練を一緒にやる。それなら2つ参加できるので、参加率もものすごく高まるし、こういうので一石二鳥、三鳥にできないのかというのが2つ目。

3つ目は、私自身もそうなのですけれども、今、フルリモートでフルフレックスという形で働いています。会社の制度がそこに向かっているので、おそらく今後こういう人たちは増えていく。だけどそのときに働く場所がないのです。私は、今どうしているかというと、先生のところの明治大学のカフェは、午前中すごく人がいなくて使いやすいので、そこで仕事をしたり、隣のセントラルパークのマックに行くと電源もあって、100円のコーヒーとアップルパイたまに頼んで200円で済むのでそこで仕事をしています。ただ、そこだと2時間ぐらいしかいられないのです。そしてオンライン会議をやろうと思ったら小声になってしまう。こういう働き方ができるような、安くて快適でヘッドフォンをしてオンラインミーティングができて長時間いられる場所があると、昼間の人口が格段に増えていくのかなと思いました。

○宮脇部会長

ありがとうございました。先ほど申し上げましたように、今日でまとめ上げるとかそういうことではありませんので、少し委員の皆様のお力もおかりして、コンセプト的なところでいい助言がいただければと思っております。

それでは、いただいた時間も参りましたので、本日の議事はこれで終了したいと思います。第4回目の部会では、まず事務局より、区民と職員のワークショップ。それから、区民と区長のタウンミーティング。こういったものでどういうご意見が出たのかということを報告していただきます。

そして、第2回、第3回の部会の重点テーマ。どんなことを整理したかという振り返りをしながら、テーマに捉われずに全体をとおして議論をしていただきたいと思っています。

第4回の部会につきましては、次第の一番下に記載されておりますけれども、7月8日

（月曜日）19 時から。会場は中野区役所で予定をいたしております。

それから、第 5 回の部会につきまして、8 月 16 日（金曜日）19 時からに開催をしたいと。ご都合は、皆さんよろしいですか。もしだめなら、また調整ということでよろしくお願いします。

それでは、事務局から連絡事項がありましたらお願いいたします。

○永見基本構想担当課長

お車でお越しになった方はいらっしゃいますでしょうか。駐車券、後ほど処理しますので事務局へ声をかけてください。以上でございます。

○宮脇部会長

以上をもちまして、自治・共生・活力部会の第 3 回を終了したいと思います。ありがとうございました。

── 了 ──